

カリフォルニアの風（3月号）

みんなへ

補習校の授業日、残りあと一日となりました。

さて、みんなは、「啓蟄」って知っていますか。この漢字は、「けいちつ」と読みます。私は、二十四節気の中で、これが一番好きです。生まれた日に近いから、という理由もありますが、「土の中で冬ごもりをしていた生き物たちが目覚めるころ」という、生き物たちが久しぶりに感じるさわやかな風と、うららかな春の光の中で生き生きとしている様子が感じられ、「さあ、一步前へ」などの気持ちになれるからです。

みんなが頑張って通った補習校、3月11日の「卒業式・修了式」で一年を締めくくります。振り返りますと、4月に、二年間のオンライン授業から全校「対面授業」になりました。

この一年、みんなはお友だちと他愛のない話をしたり、時にはぶつかったりして過ごしたのではありませんか。また、同じ空間で考えたり意見を交わしたりできることが、楽しく感じられたこと、「宿題が無ければ楽しい補習校」、「アメリカで日本語英語大変だ」の気持ちになったこと、そして、「補習校を続けるかどうか」と悩むこともあって、補習校での生活は、あっという間に過ぎていったのではないか、と思っています。

楽しんだり悩んだりして過ごした一年、みんなは、お家の人たちや先生方に温かく見守られ、支えられました。その中で、難しいことも乗り越える力を付け、集中力や苦しい時にもあきらめない心、失敗しても立ち上がる力などを身に付けました。「よくがんばったね！」きっと、お家の人もそう思っています。だから、卒業、修了という日を迎えた朝は、お家の人に「ありがとう」の気持ちを伝えてもらいたいと、と思っています。

ところで、中高部で「文化発表会」がありました。サンノゼ校とサンフランシスコ校どちらの発表も、演目一つ一つが素晴らしく、また生徒会の人たちの仲間を思う気持ちが素晴らしく、サンフランシスコ校には「出し物」という工夫もあって、それがまた素晴らしく、そして何よりも、両校みんなの笑顔が「素晴らしい」と思いました。と同時に、補習校に通うみんな、全員が「成長したなあ」と思いました。それは、「文化発表会」の場を通して、中高部のみんなだけでなく、幼小部のみんなも「仲間と一緒に頑張って創り上げよう」とか「よりよいものしよう」とか、互いに高め合うことをしていたから。また、一人では難しいことも、仲間がいれば、どんなことでも挑戦でき、大きな力を生み出すことができるという経験をしたからではないか、と思っていますが、みんなはどう思いますか。

みんなそれぞれ個性があって、一人ひとり、かけがえのない存在。

そのみんなが、卒業、修了という節目を迎えたとき、「さあ、もう一步前へ、進むぞー！」と、生き生きとした表情をしてくれることを心から願っています。

保護者の皆様へ

この一年間、大切なお子様をお預かりし、私ども教職員一同、皆様の期待に応えられるよう努めてまいりました。補習校に寄せられましたご理解とご協力に、深く感謝申し上げ、お礼に代えさせていただきます。ありがとうございました。